

## 「2015年気象学会女性の集い」開催報告

山 森 美 穂\*1・西 本 絵 梨 子\*2・安 富 奈 津 子\*3  
江 口 菜 穂\*4・佐 藤 薫\*5

京都テルサで開催された2015年度秋季大会2日目(10月29日)の昼休みに、「気象学会女性の集い」が開かれた。

これまで、個人ベースのつながりで参加を募る形で、女性研究者間の親睦を深めるためのランチ企画がなされることがあった。最近では、2014年度秋季大会(福岡)において、人材育成・男女共同参画委員会の後援行事として、昼休みに大会会場で実施されている。その際のアンケート(江口・佐藤 2016)で、所属機関および世代を跨いだ顔を合わせての交流ができる機会を歓迎し、定期的に開催して欲しいという意見が多数あがったことを受けて、2015年度秋季大会では委員会の公式行事として位置付けて開催された。世話人は、委員会から山森と江口、開催地京都の大学・研究機関から安富(大会実行委員)と西本が務めた。

当日集まったのは、大学院生、任期付き研究職員、パーマナント研究・教育職員、民間企業職員など、年代や所属機関がさまざまな41名であった。およそ8名ずつでグループを作って、円状に並べた椅子に座り、サンドイッチ(委員会で用意)をつまみながら語り合った。小グループで同じ昼食をとりながらという形式は、米国気象学会の会議でときおり開かれる昼休みセッション“Women in Science”にならったものである。リラックスした雰囲気の中、各グループそれぞれ話題で盛り上がり、いま直面していることや将来への不安、体験談などが語られた。

出席者アンケートでは、「女性の集い」が有意義である、これからも参加したいとの回答が多数、さらに「学会の後押しがあるのは心強い」という意見が上がり、学会の行事としてこのような企画が行われる意義が大きいことが感じられる。また、今回はテーマ等を設定せず、話題は自然発生にまかせたが、「テーマを設定するのによい」という意見と「ざっくばらんなおしゃべりで元気になれる」という意見の両方があった。小グループでの交流はおおむね好評だった。できるだけ多人数と交流を可能にし、グループ構成の偏りを軽減する意味で、途中で席替えをするべきだったというのが世話人からの反省点である。

人材育成・男女共同参画委員会では、今後も秋季大会での「女性の集い」を開催する方向で議論がなされている。また、テーマを設定する場合、テーマによっては(「育児と研究の両立」等)男女を問わずに集まって語る方がより有意義になる企画も考えられる。当委員会では「人材育成」や「男女共同参画」をキーワードに、よりよい研究環境を作り上げるための方策を検討していきたいと考えている。これからも、会員の皆様方のご理解と、企画への積極的なご参加をお願いしたい。

### 謝 辞

大会実行委員会には、会場利用や告知に多くの便宜をはかっていただくとともに、円滑な運営のための具体的なアドバイスをいただきました。ここに記して感謝の意を表します。

### 参 考 文 献

江口菜穂, 佐藤 薫, 2016: 日本気象学会女性会員に関するアンケート(2014年度)の結果とその分析. 天気, 63, 327-331.

\*1 (連絡責任著者) 都留文科大学初等教育学科.  
yamamori@tsuru.ac.jp

\*2 京都大学大学院理学研究科.

\*3 総合地球環境学研究所.

\*4 九州大学応用力学研究所.

\*5 (人材育成・男女共同参画委員会委員長) 東京大学大学院理学系研究科.